

大麦情報

No.1

えちご中越農業協同組合
電話番号(0258)41-2887

令和 6 年 9 月 10 日

大麦の品質・収量の安定確保には、“越冬前の生育量の確保”が最も重要です!!

①「排水対策」、②「適正施肥」、③「適期播種」、④「秋期追肥」の徹底により、越冬前の生育量をしっかりと確保しましょう!

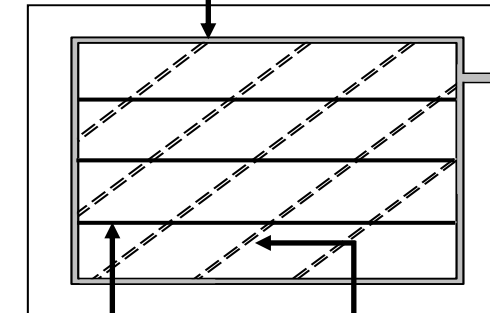
1. 排水対策

円滑な播種作業および湿害を防止するため、水稻収穫後は早急に排水対策を万全にしましょう!

- ① 周囲明渠 ⇒ ほ場の周辺に幅 30 cm、深さ 25~30 cmの溝を掘り、排水口に接続します
- ② 排水溝 ⇒ ほ場内に 3~5m間隔で深さ 20 cm程度、溝幅 20~30 cmの溝を切り、必ず周囲明渠に接続します
- ③ 弾丸暗渠 ⇒ 深さ 35~45 cmで 2~3m間隔に施工します
※ 透水性の良いほ場では間隔を広げてください

※ 周囲明渠や排水溝は定期的に点検し、必要に応じて手直しして下さい。

① 周囲明渠:幅 30cm、深さ 25~30cm



排水口

② ほ場内排水溝:幅 20~30cm、深さ 20cm

③ 弾丸暗渠:2~3m 間隔

2. 土壌改良・基肥施肥

- ◇ 大麦は酸性に弱い作物のため、土壌 pH6.5 前後（弱酸性）となるよう酸度矯正資材を散布しましょう!
- ◇ 越冬前の生育量を確保するため、基肥は確実に施用しましょう!

(1)標準施肥量とpH目標値

成分名	施肥成分量・pH 目標値
窒素	5.0~6.0 kg / 10a
リン酸	8.0~10.0 kg / 10a
カリ	3.0~4.0 kg / 10a
pH	6.5 前後

(2)肥料使用量の目安

使用区分	資材名	使用量
土づくり	醗酵ケイフン 等	30~60 kg / 10a
酸度矯正	マグクリーン	70~100 kg / 10a
基肥 (選択)	本田1号(14-14-14)	40 kg / 10a
	国産化成肥料(14-14-14)	40 kg / 10a
	麦用一発元肥(35-5-3)	40 kg / 10a

3. 種子消毒

黒穂病類・斑葉病は、生育中の防除法がありません。

必ず種子消毒（温湯浸法または薬剤消毒法のいずれか）による病害防除を徹底しましょう!

対象病害	消毒法	消毒の手順
裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、 堅黒穂病、斑葉病、雲形病	温湯浸法	初期の湯温 ~加熱せず、ふたを少し開け自然に湯温を下げます~ 42℃ (10時間) → 30℃
	薬剤消毒 (湿粉衣)	「ベンレートT水和剤 20」 種子粉衣:乾燥種子重量の 0.5%を湿粉衣します

※ 湿粉衣:乾燥種子 10 kg に対し水 200ml を加えることにより、薬剤の付着が良くなります。

4. 播種作業

越冬前の生育量をしっかりと確保するために、“適期播種”に努めましょう!

(1) 播種時期

9 月 25 日~10 月 10 日 (中雪地帯:10月5日まで、少雪地帯:10月10日まで)

(2) 土壌条件・播種様式と播種量の目安

土壌条件 (排水条件・砕土率等)	播種様式別の適正播種量		播種時期 早い → 遅い	播種量 少なめ → 多め
	全面表面播	ドリル播		
良 好	8~10 kg / 10a	7~8 kg / 10a		
不 良	10~12 kg / 10a	不 適		

※ 播種時期に応じて適正播種量の範囲内で播種量を調整して下さい。

ほ場条件や播種時期、播種様式に
合った適切な播種量として下さい!



(3) 越冬前生育量の目安

地帯別	平年根雪日数	播種時期	越冬前の生育量
中雪地帯(三島地域)	60~90 日	9 月 25 日~10 月 5 日	葉数 7 葉以上
少雪地帯(寺泊・和島地域)	60 日未満	9 月 25 日~10 月 10 日	葉数 5 葉以上

5. 雑草防除

品質・収量の安定化には、
適期播種による越冬前の生育量確保が重要です!

ドリル播と全面全層播では播種直後(雑草発生前まで)に除草剤散布による雑草防除を実施しましょう。

使用時期	薬剤名	使用量	希釈水量	備 考
播種直後 (雑草生育前)	クリアターン乳剤	500~700ml/10a	70~100ℓ	表面播種では 使用しない
	ゴーゴーサン細粒剤F	5~6kg/10a	—	
麦1葉期~	ハーモニー75DF 水和剤	5~10g/10a	100ℓ	表面播種使用可

【ドリル播種】覆土深が 2~3 cmであることを確認のうえ、除草剤を散布して下さい。

【表面播種】大麦（は種後~節間伸長前）と雑草の生育状況を考慮したうえで、ハーモニー75DF 水和剤による雑草防除を実施して下さい。

6. 秋期追肥

- ①「苗立数が 150 本/㎡を下回っているとき」、②「早播・厚播・湿害等により葉の黄化が見られたとき」は、播種 1 か月後に追肥を実施しましょう。

施肥時期	生育の状況	窒素成分量	備 考
播種1か月後 (遅くとも 11 月中旬まで)	苗立数不足 (150 本/㎡以下)	2 kg / 10a	排水対策後に追肥を実施 ○尿素 46%、硫安、塩化加里 60.0%、穂肥 500 号等
	黄化現象 (早播・厚播・湿害等)	1~2 kg / 10a	

※ 追肥量が多すぎると耐雪性が低下するので注意して下さい。

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~